

【高等学校用】

令和4年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立厳木高等学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に関して、基礎学力の徹底に取り組んだことで一定の成果を得た。PDCAサイクルを意識した授業改善について89%の教職員ができたが、オンライン授業のための教材開発は77%に留まっている。 ・心の健康面に関して、学校全体でのあいさつ運動や特別支援活動等の効果もあり、自己理解・他者理解が進んだ。いじめの認知に関しては、担任、学年及び管理職が綿密、且つ迅速に対応できた。 ・職員の業務改善に関しては、時間外在校等時間の平均値は23時間56分(2月未現在)であり、目標を大きく達成できた。また、広報誌「わかずぎ通信」で、学校の取組を厳木町全体で紹介することができた。
------------------	---

2 学校教育目標	生徒一人ひとりの個性や特性に応じたカリキュラムや体験活動を通して、地域や社会に貢献できる心豊かな人材を育成する。
----------	--

3 本年度の重点目標	①基礎学力の定着 ②部活動の活性化 ③あいさつ運動の促進 ④ボランティア活動の充実 ⑤広報（宣伝）活動の強化
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎学力の定着と向上	○基礎力診断テストの学習到達ゾーン(GTZ)のD3層を、各学年とも70%以下にする。	・基礎力診断テスト前の対策を各教科と連携して行う。 ・D3層の意味を理解させると共に授業の大切さを理解させる。	B	・GTZのD3層の理解を促す表を作成して各クラスに掲示し、基礎力診断テストと夏季休業の課題を運動させた。夏休み明けの結果は、D3層は1年生67%、2年生53%3年生50%であった。	B	・GTZのD3層の理解を促し、各教科とも連携して。基礎力診断テストと冬季休業の課題を運動させた。冬休み明けの結果は、D3層は1年生65%、2年生57%、3年生59%であった。	A	・GTZがD3の生徒が年々減少していることは、基礎学力が定着している事の一つの現れだと思われる。 ・全校挙げての漢字テストを継続実施していることで、家庭学習の定着に一定の効果が見られている。	進路指導部
	○授業への出席率向上	○各学年の授業への出席率を95%以上にする。	・授業に出席する意義や欠課が招く事象について各教師が確実に伝える。 ・学級委員長に各クラスの出席状況を定期的に確認し、呼びかけを行う。	B	・前期末の出席率が93.3%であった。各教師からは欠課が増えた際のリスクについて伝えてもらっているため、生徒間の意識が向上するような取組みに後期は力を入れた。	B	・2月末時点での出席率は94.5%(退学・転学・休学者を除く)であった。おおむね目標の数値となったが、遅刻や欠席の多い一部の生徒への取り組みが今後の課題である。	B	・出席率は目標(95%)には届かなかったが、年度当初に比べて上昇した。 ・遅刻が多い生徒に関しては、家庭の協力も必要である。	教務部
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	◎学校行事や「総合的な探究の時間」の中で社会性が向上する等、豊かな心が身についたと感じる生徒を85%以上にする。	・学校行事の中で生徒どうしが関わる場面を意識的に増やす。 ・1,2年生「総合的な探究の時間」の学習で協働的に学ぶ場面を多く設定する。	B	・総合的な探究の時間では、特に2年生で協働的に学ぶ時間が多く設定できている。1年生でも教材を活用してさらに増える予定である。学校行事は後期に集中している。	B	・後期は総合的な探究の時間における取り組みがやや低調だったが、体育祭や文化フェスタ、インターシップ等の学校行事においてクラスや学年を越えた繋がりが作ることができた。	B	・総合的な探究の時間の計画的な取組ができていると思われる。 ・生徒が主体的に取り組むことができる機会を多くしてほしい。	教務部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「佐賀県いじめ防止基本方針」に基づいて行動できる職員を90%以上にする。	・職員研修を実施し、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に努める。 ・いじめのない学校づくりのために、集会やホームルーム等で指導を行う。	B	・「佐賀県いじめ防止基本方針」に則り、すべての教員が、生徒が安心して学校生活を送れるように、会議などを通して、各教員・保護者と連携して、いじめの未然防止・早期発見に取り組んでいる。	B	・いじめの認知を13件行ったが、各担当職員は内容の把握、改善に向けて迅速に取り組むことができた。 ・担任・学年主任・管理職と綿密に連絡し、いじめ問題について迅速に対応することができた。	B	・SNSに関する諸問題をテーマとした講演や寸劇などを行い、少しでも減るような取組を実施してほしい。 いじめ体罰アンケートの実施時期だけでなく、常に生徒が気軽に教員に話しかける雰囲気作りができた。	生徒指導部
	○望ましい郷土愛の醸成	○「佐賀のことを学ぶ時間」を通して、郷土について関心が高まったと感じる生徒を80%以上にする。	・「体験学習基礎」「故郷学」などの学校設定科目の学習内容を充実させる。 ・「佐賀語り」を用いた授業の推進や「佐賀を誇りに思う」講演会を実施する。	B	・「体験学習基礎」は今年度の1年生も地域との連携の中で充実した学習ができています。「故郷学」や「佐賀を誇りに思う」講演会は後期に実施予定である。	A	・講演会では96%以上の生徒が「郷土の価値を再認識できた」、3年生への調査では佐賀への愛着や誇りが「ある」「どちらかというところ」と81%の生徒が答え、目標を達成する取り組みができた。	A	・郷土愛を高める講演は、学校だけでなく町を大切にしようという心を育み、それがごみ問題や環境問題の解決にもつながると思われるので、今後も実施してほしい。	教務部
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○規則正しい生活リズムを確立させる。 ○朝食摂取率を70%以上にする。 ○むし歯保有率を50%未満にする。 ○歯科受診率を30%以上にする。	・朝食アンケートを行い、生活習慣、食生活について振り返り、考えさせる。 ・学校歯科医による講演会の中で、ブラッシング指導を行う。	B	・9月のある1週間の朝食摂取率の平均は75.9%であった。朝食アンケートを11月に実施予定。 ・むし歯保有率は47.1%、歯科受診率は6.2%と低い。12月に予定している歯科講話(1年生)や受診勧告を再度行い、受診率向上を目指したい。	B	・11月に実施した朝食アンケートでは、朝食摂取率が62%で、昨年12月と比較すると伸びてきている。 ・むし歯保有率は昨年度より10.7%と減少。12月に実施した歯科講話ではブラッシング指導を行ったが、歯科受診率は6.3%と変わらず低い。次年度以降も引き続き、歯科講話や保健日より等呼びかけていきたい。	A	・健康管理に関しては、保健だよりや学習用端末を活用した注意喚起等の情報発信ができています。非摂取については、家庭の協力・同意が必要になってくるので、PTAを利用した取組を考える必要がある。 ・歯科講話の取組は効果があったと思われる。今後も継続して実施されることを希望する。	保健厚生部
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	B	・定時退勤推進日は月曜日に設定済み。 ・学校閉庁日の設定(8月9日～16日)。 ・部活動で週休日以外に月に一度の休業日の設定。 ・時間外自発勤務1カ月40時間以内。 ・年次休暇10日以上取得。	B	・時間外在校時間平均24時間23分(1月現在)。 ・10日以上の年次休暇取得率は50%(令和4年)。 ・部活サボーターを導入し、顧問の負担軽減達成。 ・業務振り解消のため行事変更実施。大幅軽減とまではいかないまでも、次年度継続することで解消に繋がることが予想される。 ・年次休暇10日以上取得については、取組中。	B	・2月までの平均時間外在校時間は24時間14分、県立学校平均(34時間24分)よりも10時間ほど短かったことは評価できる。 ・10日以上の年次休暇取得率50%は他校のデータがないうえに比較が難しいが、100%をめざしてほしい。 ・定時退勤推進日が必ず履行される工夫をしてほしい。	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○部活動	○部活動の活性化	○部活動入部率65%以上にする。 ○部室や活動場所の整理整頓と施設の徹底に関する注意喚起を年4回以上行う。	・4月に体験入部を2日間設定し、新入生全員参加を促す。 ・部活動ごとに練習計画表の発行する。	B	・部活動入部率69.7%である(4月末現在)。10月または11月に再度入部状況を確認予定である。 ・部室の使用状況を5月と6月に確認した。練習計画表は各部活動ごとに発行してもらうよう各顧問に周知し、適切に実施している。	B	・部活動入部率68.6%(11月末現在)。複数の部活動に入部している生徒が増加した。 ・各部活動の練習計画等の発行は継続実施できた。 ・部室の環境整備点検を年に4回実施できた。	B	・部活動の種類が生徒の多様なニーズに応えられていないのは教員数が少ないので仕方がない。今後は社会体育に参加できるような仕組みを作る必要があると思う。 ・部室の整備は概ね行き届いているようである。	生徒会
○あいさつ運動	◎あいさつ運動の促進	◎あいさつを通して、互いを尊重し、良い関係を確立できるよう、運動を継続する。 ○「あいさつを積極的に行っている」と感じる生徒の数を70%以上にする。	・JR厳木駅や通学路の清掃活動とあいさつ運動を週2回実施(生徒会および部活動の輪番制)。 ・集会時や授業時の始まり、終わりのあいさつの徹底。	B	・あいさつ運動とJR厳木駅の清掃活動は定期的に実施した。 ・朝のあいさつ運動のときだけでなく、日頃の授業や集会のあいさつについても指導を継続する。	B	・あいさつ運動とJR厳木駅清掃については1年間を通して週2回、生徒会について周知することができた。公開授業の参加生徒は積極的な声掛けができた。また、駅清掃に参加した生徒は意欲的に活動することができた。	A	・あいさつ運動とJR厳木駅の清掃は地域に過剰に喜ばれていると聞いている。また、ボランティア部や食物研究部の地域への貢献も大きく、あまり目立たないが大きい評価できる。 ・生徒が主体的に活動できる仕掛けをさらに増やしていただきたい。	生徒会
○教育相談・生徒支援体制の充実	★「通級による指導」の充実及び教職員の専門性の向上	★「通級による指導」に関する専門性(手続きや指導内容等の理解)が向上した教員80%以上を維持する。	・「通級による指導(自立活動)」に関する研修会の実施。 ・「通級による指導(自立活動)」の公開授業の実施。	B	・会議等を通じて、一部の教員に対しては、「通級による指導」に関する内容や生徒の様子について周知している。全職員については、11月に授業公開及び校内研修会の実施を予定している。	B	・月例の支援委員会を通じて「通級による指導」を受けている生徒の様子について周知することができた。公開授業を10月に全学年1回、計3回実施した。参加者が少数であり80%の理解には達しなかったことが、次年度の課題である。	B	・全日制普通科高校で通級による指導を受けられる環境は素晴らしいと思う。人数制限があるため、専門知識を持つ教員を増やしてほしい。 ・校内研修の参加者が増えることを望みます。	教育相談部
○広報活動	○広報活動の強化	○学校紹介の資料内容の精選と更なる充実を図ると共に、各種学校説明会を年間30回以上実施する。	・県主催の説明会はもちろん、各中学校に出向く機会を積極的に活用する。 ・学校説明の資料に現役生の活動を盛り込むと共に情報を精選する。	B	・管理職、教務部を中心に積極的に学校説明会の企画、実施、参加ができている。学校パンフレットや説明会用のプレゼンテーション資料に現役生の様子をさらに増やしていきたい。	A	・管理職、教務部を中心に本校独自の説明会を企画、実施し、その回数は42回を数えた。中学校関係者が参加できる企画も増やし、積極的に訪問もしたことが志願倍率に繋がったと考える。	A	・年度当初から多くの説明会を開催、参加できたことはよかった。近年は重点評価枠の関心が高く、入学希望者も多い。次年度は総合評価枠の魅力の発信も併せて期待したい。	教務部

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力向上に向けては、国語について1年次生が全員受検する漢字能力検定の準2級合格者率(20%、昨年度0.8%)の大幅上昇をはじめとして、徐々にではあるが定着しつつある。また、大学等への進学希望者に対しては1人1台の端末の活用(オンライン授業等)や授業時間以外の補習の充実により、第1志望校への合格者数を確保できた。次年度は英語や数学において、学力の正確な把握のための取組について検討する。 ・部活動については、特別選抜入試を活かして専門性の高い部員の確保をきっかけとして活性化に取り組む、大会やコンクール等で入賞、入選者を出した。部活動を通じた体づくりや健康増進に役立てる方法を模索する。 ・あいさつ運動については、生徒会や部活動を中心に計画的に実施した。また、ボランティア活動については、HRや掲示板等で案内し、… ・広報活動については、管理職や教務部による個別中学校訪問(延べ42校)及び他の高校との合同学校説明会への参加や、本校での体験入学や入試説明会を開催するなどして、学校紹介や入試説明等を行った。
--------------------	---